

# 劣化進む壁画長く残したい

## 石巻「大川小」遺族らが保護

態を保ち続けたい」と話した。

東日本大震災の津波で見  
童・教職員計84人が犠牲に  
なった石巻市の震災遺構  
「大川小」で9日、劣化が進  
む旧体育館脇の壁画の保護  
作業が初めて実施された。

壁画は旧大川小の児童が  
卒業制作として2002年  
までに手がけ、旧校舎の絵  
や宮沢賢治の詩をコンクリ  
ートに描いた。震災から月  
日がたち色が剥がれるなど  
したため、一部遺族から対  
応を求める声が出ていた。

大川小6年だった三男雄  
樹君（当時12）を亡くし  
た佐藤和隆さん（55）が今  
春、知人で市内の塗装業「サ  
ン商事興業・留畑塗装」の  
留畑豪紀代表（56）に作業を  
依頼。留畑さんは現地確認  
で震災後初めて大川小を訪  
れ「津波の爪痕が残る旧校  
舎の姿が胸に迫った」と無  
償で引き受けた。

9日は留畑塗装の作業員  
2人が市の許可を受け、紫

外線や雨水による劣化を防  
ぐ塗料を壁画に施した。留  
畑さんは「住民や遺族がさ  
まざまなことを思い出せる  
ようにするため、壁画の状  
態を保ち続けたい」と話し  
た。佐藤さんは「ここ数年は  
壁画の劣化がひどかったの  
で、作業ができてほっとし  
ている。保存に向けた一歩  
になると思う」と語った。



壁面に塗料を塗る作業員